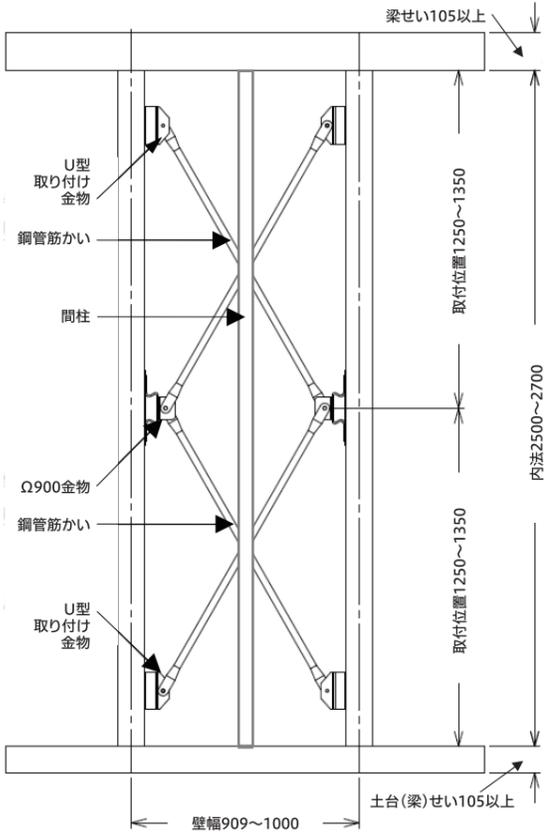


オメガ耐力制震壁は、地震の揺れに耐える"耐震"と、地震の揺れを吸収する"制振"の二つの能力を兼ね備えた画期的なシステムです。オメガ金物が制振を担い、変形・復元を繰り返すことで地震力を効果的に吸収します。これにより、地震による変形量を最大で60%以上低減できます。壁幅は、900タイプと600タイプがあり、両タイプ共に耐力壁として壁倍率の大臣認定を取得しています。

※制振の効果は、実大実験プランにて実証。オメガシステムの数で低減率は異なります。

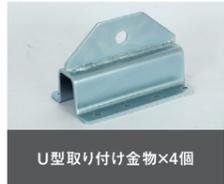
### 完成姿図



単位:mm

### 構成部品 (1セット分)

#### 900タイプ

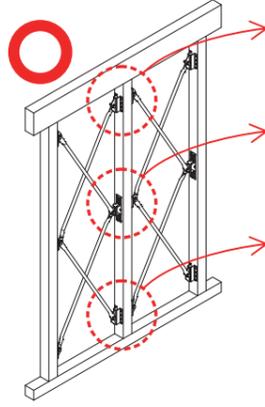


※ビスは予備が含まれます

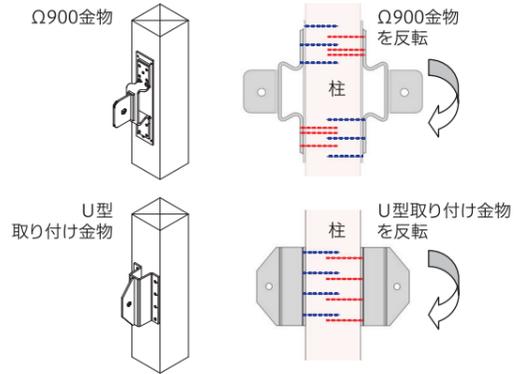
## ⚠️ 連続させて施工する場合の注意事項

- 1本の柱に対して最大2壁までの配置ができます。1本の柱に対して3壁以上配置することはできません。また、オメガシステム600タイプとの連続配置もできません。

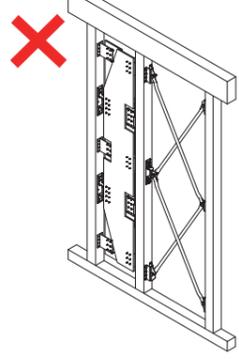
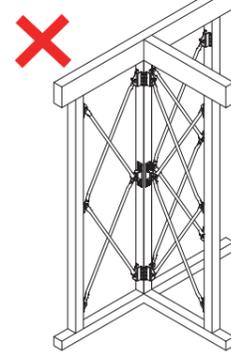
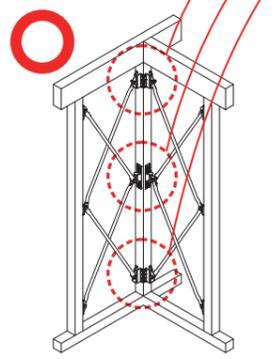
### 配置可



オメガシステム900タイプを1本の柱に2壁配置する場合は、留め付けビス同士が干渉しないように、連続するΩ900金物・U型取り付け金物のビス孔がずれるように反転させて取り付けます。

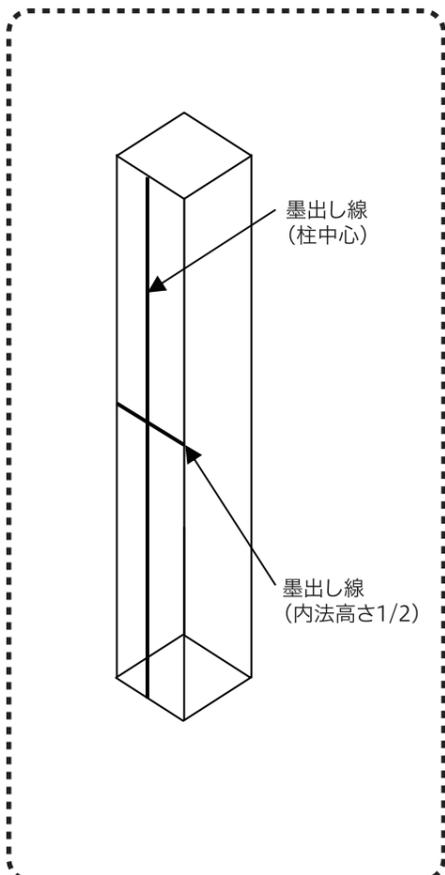


### 配置不可



## ① 墨出し

- Ω900金物、U型取り付け金物を設置する柱の中心に、墨出し線を引きます。
  - Ω900金物の取り付け高さ(金物芯)は、内法高さの1/2の位置です。
- ※両方の柱に対して墨出します。



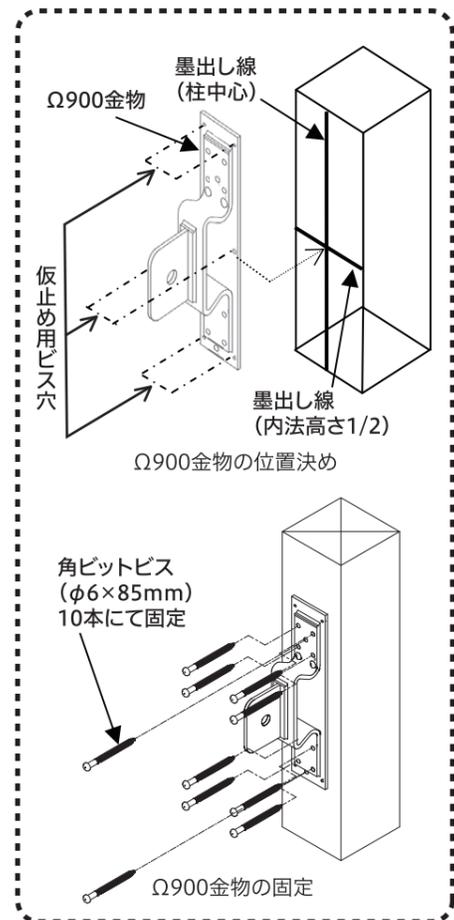
単位:mm

## ② Ω900金物の取付け

- Ω900金物を内法高さ1/2の墨出し線位置に合わせて固定します。
  - Ω900金物の固定は、角ビットビス(φ6×85mm)10本にて止め付けます。
- ※両方の柱に対し、同様に墨出します。



単位:mm



単位:mm

### ③ 鋼管筋かいの取付け

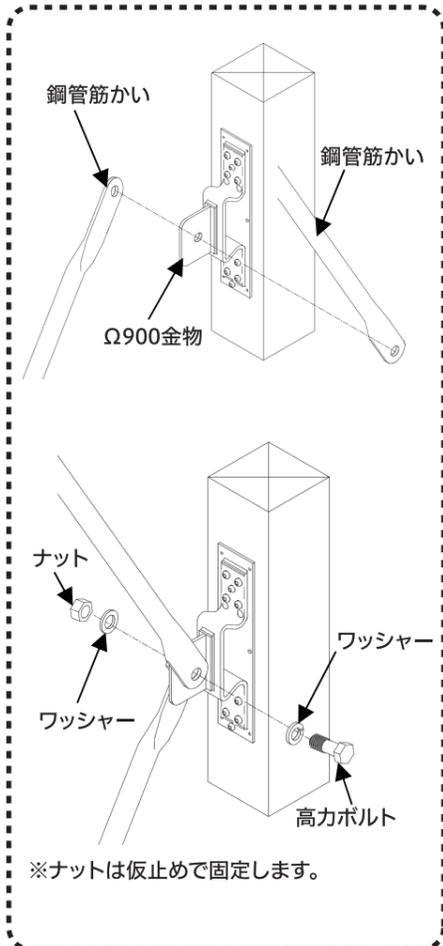
- Ω900金物のボルト穴を基準に鋼管筋かいを取付けます。
- この時点で、高力ボルトは仮止めにおきます。
- ※ Ω900金物1個に対して、鋼管筋かいを2本取付けします。



写真3「鋼管筋かいの取付け」



角ビットビス(φ6×85mm)



※ナットは仮止めで固定します。

単位:mm

### ④ U型取り付け金物の取付け

- 鋼管筋かいの端部にU型取り付け金物を固定します。
- U型取り付け金物と鋼管筋かいの固定には、高力ボルトセットを使用します。
- U型取り付け金物と柱の固定には、角ビットビス(φ6×85mm)8本で止め付けます。
- ※合計4個取り付けてください

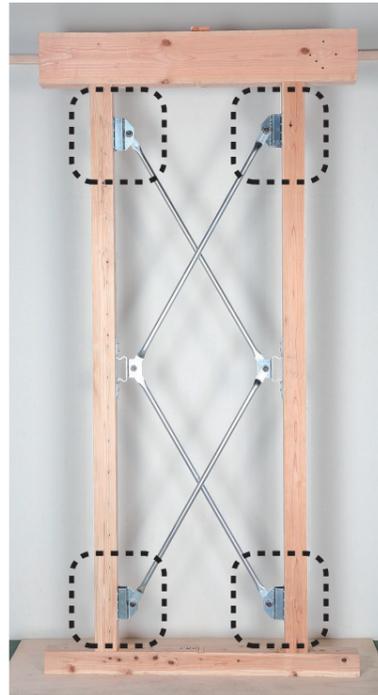


写真4「U型取り付け金物の取付け」



角ビットビス(φ6×85mm)



角ビットビス(φ6×85mm)8本にて固定



角ビットビス(φ6×85mm)8本にて固定

単位:mm

### ⑤ 高力ボルトの本締め・完成

- 鋼管筋かいとΩ900金物及び、U型取り付け金物の接合部を高力ボルトにて本締めします。
- 本締め時のトルク値は、200N・m(±20N・m)が必要です。
- 締め付けには、プリセット形トルクレンチを使用します。
- マーキングを入れ、締め忘れと共回りのチェックを必ず行います。

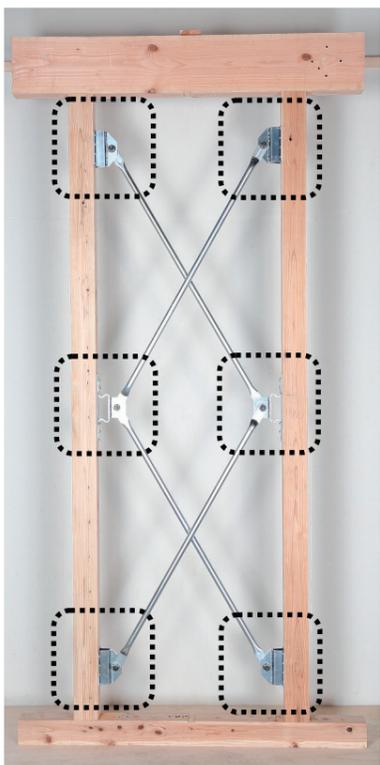


写真5「高力ボルトの本締め」



トルク値200N・m(±20N・m)にて本締め(6か所)



マーキングを入れ、締め忘れと共回りのチェックを忘れずに行います。



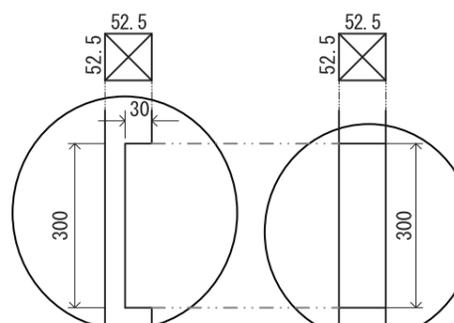
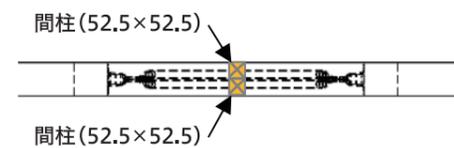
(例)プリセット形トルクレンチ

単位:mm

### ⑥ 間柱の取付け

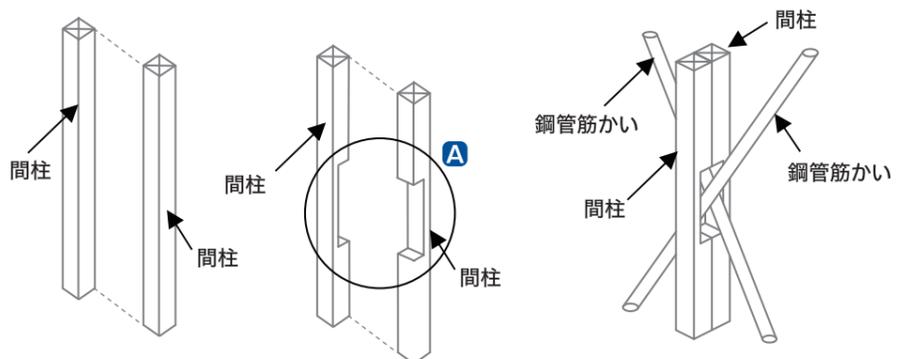
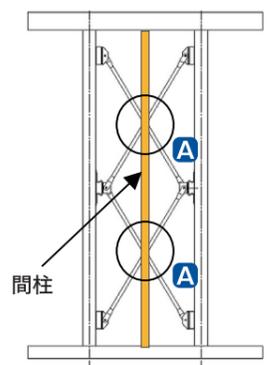
- 間柱は2丁合わせとします。
- 鋼管筋かい部分は、詳細図のとおり、欠き込み加工が必要です。

※表示は、柱サイズ105の場合です。



詳細図A(側面)

詳細図A(正面)



※省令準耐火構造の場合には、ファイアーストップ材の充填方法等管轄する官公庁にご確認ください。

単位:mm